

現場から経営学ぶ

留学生ら新座の企業訪問

海外からの留学生らが7日、新座市の理科学機器開発



もSUUの現場を見学する留学生ら。7日午後、新座市の協和界面科学

・製造・販売の「協和界面科学」を訪れ、亀井信一社長らからワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の在り方や仕事の多様性など現場から学んだ。

同社を訪れたのは、中国や韓国の留学生と日本の中小企業経営者ら計約20人。経営の在り方の見直しなどをテーマに、早稲田大学とのそな総合研究所が行う「異文化交流セミナー」の一環で、事前に商品開発をめぐる社長と社員の働き方の相違などを議論していた。

この日は同社のものづくり現場を見学した後、亀井社長

や総務、海外営業部の社員が仕事の進め方についてディスカッション。育児休暇を取得した男性の仕事をカバーするため、総務部の社員が営業の仕事をサポートした実例を紹介したりした。

その後、学生らはワークシヨップを実施。「育児休暇を取るためには社内の連携が大事」などの意見を出し合った。

中国からの留学生劉玉婷さん(26)は「男性も育児をして家庭とのつながりが強まれば、仕事のやる気もでるので」と話していた。(中島和哉)